

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01569

研究課題名(和文) 徳川家族人口構造の地域的多様性に関する社会学的研究：地域三類型論再考

研究課題名(英文) Sociological research on the regional diversity of family demographic structure in the Tokugawa period: a re-examination of the three-region typology

研究代表者

平井 晶子(Hirai, Shoko)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：30464259

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではこの四半世紀に形成された近世日本の家族人口構造の地域類型論(東北日本型、中央日本型、西南日本型の三類型論)に、「空白地域」の研究を加え、地域類型論の再構築を目指した。そして(1)空白地域、山陰地方の石見国(島根県)の多角的な歴史人口学的分析から山陰地域が概ね中央日本型であること、ただし(2)海村は西南日本型の可能性が残っていること、(3)山陰は中央日本型であるが、人口増加が著しいという点で従来のタイプとは異なるため中央日本型には人口増加地域と人口安定地域というサブ類型があることを見いだした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の家族人口構造の地域類型論は、地域類型と人口変動が連動しており、両者は一体のものとして論じられてきた。人口が減少する「東北」、安定の「中央」、増加の「西南」である。それに対して石見国の研究を進めた本研究では、「中央」には人口増加が著しい地域も含まれることが明らかになり、中央日本型には「人口安定地域」と「人口増加地域」というサブ類型があることを見いだした。また石見国の海村には「西南」の可能性もあり、西南型は地理的空間ではなく生業との関係が強い可能性があらためて示された。以上、従来の地域類型論を刷新し新たな特性を加える成果が出たと評価できる。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to reconstruct the regional typology, formed over a quarter of a century, of early-modern Japanese family demographic structure (based on the North-eastern, Central, and Southwestern Japan three-region typology), by incorporating research on previously unexamined regions. We demonstrated that: (1) through a multi-faceted historical demographic analysis, the unexamined region of Sanin Region (Iwami no Kuni, Shimane prefecture) predominately fits the Central Japan type, however; (2) there still remains the possibility that seaside villages fit the South-western Japan type, and also; (3) while Sanin Region fits the Central Japan type, its marked population increase distinguishes it from existing types and points to 'population growth regions' and 'population stable regions' as subtypes within the Central Japan type.

研究分野：家族社会学 歴史人口学

キーワード：地域類型論 歴史人口学 家族人口構造 人口変動 家族変動

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の位置づけ

歴史人口学的方法を用いた家族の歴史社会学的研究はこの20年で着実に進み、前近代の家族やライフコースの解明が進んできた。なかでも日本の地域差は国際的にみても顕著で、日本家族を大きく特徴づけるものであり、その類型化も進んできた。しかし前近代に顕著な地域差であるが時代とともに後退し、現代家族の主たる説明要素には含まれない。申請者は、東北地方の家族とライフコースの歴史社会学的研究を行いその特徴を明らかにしてきた。とくに時代の変化に注目し、近世末に「家」社会が生成するプロセスを示し、地域性は明治維新や工業化に先駆け縮減しはじめていたことを明らかにした。では、現代に伝統的地域差の影響はないのか。「300年の日本家族の変動」を課題としたプロジェクトでは現代における世代関係と伝統との関連を検討し、一定の変容を被りながらも地域性が規定力を失っていないことが見えてきた。おそらく基層にある地域特性は表層の状況の変化に合わせて顕在化したり潜在化したりするのではないかとすれば、基層に横たわる地域類型をより詳細に検討し、かつ変容の経路を解明する必要がある。本研究では地域論の空白地域を補い、地域類型論の再構築を試みた。

(2) 研究史との関連

表1 家族人口構造の地域三類型論

	東北日本	中央日本	西南日本
速水の家族・人口パターン*			
参照地域	会津・二本松 (福島県)	濃尾平野 (長野・岐阜県)	東シナ海沿岸の海村 (おもに長崎県)
家族形態	直系家族	直系または核家族	直系、核、合同家族
相続	単独相続	単独 / 不平等相続	単独 / 平等相続
継承	長男子 / 長子継承	長男子継承	長男子 / 末男子継承
世帯規模	大	小	大
初婚年齢	低	高	高
出生数	少	多	多
婚外子	少	少	多
出生制限	高	低	低
人口趨勢	減少	停滞	増大
落合の世帯形成システム**			
参照地域	二本松・天童 (福島・山形県)	美濃 (岐阜県)	肥前の海村 (長崎県)
結婚	早婚 再婚・離婚が多い	晩婚 離別・再婚が少ない	晩婚 生涯独身率が高い
相続・継承	一人の既婚子が親元に残り 直系家族世帯を形成		複数の既婚子、未婚子 も親元に残る
移動	既婚男女が奉公人帰 還型移動	非跡取りはライフサイ クル奉公人で離家	子どもが世帯を移動

\*速水の家族・人口パターンは速水(2009)567頁の表20-1からの抜粋、参照地域は566頁より追加。

\*\*落合の世帯形成システムは落合(2015)26頁、27頁の説明、表序-3より作成。

日本の歴史人口学を創設し50年にわたり牽引してきた速水融(1997、2009)は、歴史人口学の知見を総合し、日本の家族人口構造を東北日本型、中央日本型、西南日本型の3つに類型化した。また、比

較社会的視点および歴史社会的視点から歴史人口学的家族論を推し進めた落合恵美子(2015)は、応募者(代表者・分担者も一部参加した)らも参加した共同研究の成果をまとめ、速水の地域三類型論を精緻化するとともに、各類型の世帯形成システムを新たに提示した。その速水、落合の類型論を簡潔にまとめたのが表1である。

表1から分かるように、速水も落合も、基本的には同じ地域の情報から三類型論を打ち立てた。すなわち福島県の事例から東北日本型を、岐阜県・長野県の事例から中央日本型を、長崎県の海村の事例から西南日本型を構築した。歴史人口学は資料に大きく依存するため利用可能な事例は限られる。資料があっても分析可能な状態に整理するには相当な時間と労力を要する。しかも類型論に必要な情報を抽出するには長期間、できれば75年以上の期間(3世代以上)を連続して観察しうる戸口資料(人別改帳・宗門改帳)が必要になる。新たなモノグラフ研究を始めるのは様々な面でハードルが高く十分には進んでこなかった。

## 2. 研究の目的

本研究では、従来の類型論では議論されていなかった「空白地域」の新たなモノグラフ分析、ならびに同地域の様々な村の歴史人口学的研究を深め、それらを総合し、従来の地域類型論を刷新することを目指した。新たなモノグラフの探求と類型論との往還に挑戦する点に本研究の独自性があり、それにより地域類型論を再考築する点に研究の創造性がある。

すなわち、本研究の核心的問いは、従来の地域論において顕著な空白地帯である日本海側、とりわけ山陰地方の家族人口構造はいかなるものか、それは中央日本型に含まれるのか、山陰地方の海村は、中央日本型か西南日本型か、である。

## 3. 研究の方法

### (1) 歴史人口学的方法

徳川家族人口構造を検討するにあたり、本研究では歴史人口学的方法を採用する。歴史人口学のおもな資料は戸口資料(宗門人別改帳)である。宗門人別改帳(宗門改帳、人別改帳)は地域や時代により個性が大きく、一律で家族やライフコースの分析に適した資料とは断定できない。村ごとに世帯分析、人口学的分析、家族分析等に耐えうるものであるかを詳細に検討(資料検討)した上で分析を行う必要がある。本研究の推進にあたり、新たな村のモノグラフを作成しているが、資料検討を行った上で分析に入っていることを付記する。

また、1960年代から始まる日本の歴史人口学の展開のなかで、歴史人口学的家族研究の方法は洗練されてきた。申請者は1995年から6年間、当時、日本の歴史人口学的家族研究の中心地であった国際日本文化研究センターにて、歴史人口学的方法、資料検討、資料分析、データベース作成など、まさにデータベース作成の「現場」で研究を進める機会に恵まれた。そのような経験に基づき本研究を進めたこと、現在「徳川家族人口データベース委員会」(代表:落合恵美子・平井晶子)の事務局がある神戸大学社会学研究室を軸に研究を行ったことを追記する。

(2) 矢上村(島根県)のモノグラフ研究:山陰地方とりわけ島根県の人口は近代に入ると減少する。全国的には増加が顕著な時期であるが島根県は特異なパターンを経験する。それはなぜか、徳川期の連続性のなかで検討する必要があるが、当該地域の詳細な長期間観察可能なモノグラフはなく、それが課題とされてきた(本研究の分担者、廣嶋清志は幕末の人口分析を行っているが、これまで十分な時系列的資料がなくそれ以上踏み込めなかった)。本研究では地域論の空白地域である矢上村の本格的なモノグラフを作成し、本格的な分析を行った。当資料は、分担者である廣嶋による長年の交渉により

ようやく利用可能になったもので、1781年から明治初頭まで90年分連続している。村の規模も3000人前後と非常に大きく、モノグラフの作成にはまたとない資料である。担当は、一貫して島根県の家族人口研究を進めてきた廣嶋と、地域の近世資料の第一人者小林准二、家の変動論を軸に歴史人口学的家族論を進めてきた本研究の代表者、平井である。まったく新しい宗門改帳の資料検討からデータベース化、分析までを進めるには地域、資料、データベース、分析、それぞれに熟知した研究者が必要である。今回はまさに各担当にふさわしい3名でチームを組むことができた。

#### 4. 研究成果

##### (1) 山陰地方の特徴

表2に示したように、家族人口指標を総合的に検討した結果、石見国の家族人口構造は、東北日本型よりは概ね中央日本型に適合的であることが明らかになった。

表2 山陰(石見国)の家族人口パターン

	東北日本 下守屋村・仁井田村	中央日本 西条村	山陰(石見国) 今浦、和木村、矢上村
多核(直系)家族世帯	多い 3割以上	少ない 1割	和木 中 2割 矢上(1781) 15%
女性戸主率	少ない 1割	多い 3割以上	少ない 1割
初婚年齢	女性 17 男性 21	女性 23 男性 29	女性 SMAM21-26 男性 SMAM27-31
生涯独身率	女性 0.1% 男性 2%	女性 13% 男性 10%	女性 9%(同居児法) 男性 9%(同居児法)
合計有配偶出生率	2.8	6 ‰	4-6
粗出生率	22‰	37‰	30、22、29、37‰
自然増加 18世紀後半	-1.6 減少	10.7 安定	3.3、-2.3、7.1 増加
離婚率(‰)	3.1-5.3‰ (平井 2021)	-	矢上(1822) 1.9‰

\*東北日本・中央日本については一部を除いて表1と同様。

\*\* 平井(2021)

\*\*\* 石見の成果は文末の「石見国の歴史人口学文献」を参照。

##### (2) 徳川家族人口構造の新たな地域類型

表3 徳川家族人口構造の地域性:3類型と下位分類

	東北日本 会津・二本松	中央 濃尾型	日本 山陰型	「西南」日本 東シナ海沿岸の海村 (山陰の海村?)
人口趨勢	減少	停滞	増大	増大
家族	直系	直系または核家族	直系または核家族	直系、核、合同家族
人口学的	早婚・離婚多数	晩婚・離婚少ない	晩婚・離婚少ない	婚外子が多い

加えて、本研究を通して3類型論を一步進める知見を得ることもできた。それは中央日本型の下位類型としての石見である。中央日本型は18世紀前半の人口増加期、18世紀後半の人口安定期、19世紀中葉からの人口増加期と人口が推移するものと位置づけられてきた。しかし、石見では人口はほぼ一貫して増加する。つまり、人口推移と家族人口構造はかならずしもリンクしておらず、人口変動と家

族類型を分けて考える必要があることが明らかになった。加えて、石見国の海村については婚外出生などを今後検討し、西南日本的要素がないかどうか、さらなる検討が必要な点も見えてきた。いいかえると西南日本は従来からも指摘されているように、「西南」であるとともに「海村」に広く見られる可能性が浮かび上がった。

すなわち、本研究の推進により、表3のように、従来の3類型論を再検討し、新たな類型論の提示を行うことが可能になった。ただし、モノグラフ研究は未だ研究途上である。重要な成果が期待できる可能性が明らかになった今、さらなるデータ整備・研究が大いに待たれる。

加えて、これまでの日本の地域性に関する家族人口学的研究の成果を海外に発信すべく英語の著作としてまとめることができた(Ochiai and Hirai eds., 2023)。これも本研究の大きな成果と位置づけられる。

#### < 石見国の歴史人口学的文献 >

小川斉子 2016 「近世中期の浜田藩領和木村の人口動態」『山陰研究』9, 1-17

小川斉子 2017 「近世中後期の石見国海村の宗門改帳と人口動態：浜田藩領那賀郡和木村を事例として」  
廣嶋清志編 『日本の人口転換開始の地域分析』2013 - 16 年度科研報告書

廣嶋清志 2002 「幕末石見天領の人口機構 単年次宗門改帳による観察」『経済科学論集』28, 1-28

廣嶋清志 2004 「幕末石見天領の地域別人口変動」『経済科学論集』30

廣嶋清志 2008 「石見銀山領の社会階層別の出生率と結婚率 真宗の出生率は高いか？」相良英輔先生  
退職記念論集刊行会 『たたら製鉄・石見銀山と地域社会 近世近大の中国地方』清文堂

廣嶋清志 2009 「家の再生産と結婚率・出生率 幕末石見銀山領の宗門改帳から見る」『統計』60-7

廣嶋清志 2009 「幕末石見銀山領の同居別荘からみた家制度」『経済科学論集』35, 1-22

廣嶋清志 2010 「幕末石見銀山領における就業移動 持高階層別家再生産率に関連して」『山陰研究』3

廣嶋清志 2015 「幕末における人口機構の地域差 石見銀山領に見る」落合恵美子編 『徳川日本の家族  
と地域性 歴史人口学との対話』ミネルヴァ書房

廣嶋清志 2021 「近世山陰一農村の人口と家族 石見国今浦に見る」『社会学雑誌』38, 20-42

廣嶋清志 2022 「天保飢饉と家族の損壊・再生 石見国今浦に見る」『山陰研究』

廣嶋清志 2023 「江戸後期農村人口における波動と飢饉：石見国邇摩郡今浦にみる」『人口学研究』59, 41-59

平井晶子 2022 「矢上村（天明元年）の家族と人口の基礎的分析」（研究会報告 2022/12/17）

平井晶子 2024 「石見国は中央日本型の家族人口構造か」（研究会報告 2024/3/17）

#### < 参考文献 >

落合恵美子 2015 「徳川日本の家族と地域性研究の新展開」、同編 『徳川日本の家族と地域性：歴史人口学との対話』（ミネルヴァ書房）

速水融 1997 『歴史人口学の世界』（岩波書店）

速水融 2009 『歴史人口学研究：新しい近世日本像』（藤原書店）

平井晶子 2021 「三〇〇年からみる家族人口論序説」『社会学雑誌』38, 6-19

Ochiai Emiko and Hirai Shoko eds., 2023, Japanizing Japanese Families: Regional Diversity and the Emergence of a National Family Model through the Eyes of Historical Demography, Brill.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 中島満大	4. 巻 91
2. 論文標題 近代移行期における標準化する結婚と出生	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 政経論叢	6. 最初と最後の頁 63 - 80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣嶋 清志	4. 巻 15
2. 論文標題 天保飢饉と家族の損壊・再生 石見国今浦に見る	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 73-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小池司朗	4. 巻 78-3
2. 論文標題 近年における外国人人口の地域分布	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人口問題研究	6. 最初と最後の頁 419-430
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平井晶子	4. 巻 38
2. 論文標題 三〇〇年からみる日本の家族と人口	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学雑誌	6. 最初と最後の頁 6-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 廣嶋清志	4. 巻 38
2. 論文標題 近世山陰一農村の人口と家族 石見国今浦の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学雑誌	6. 最初と最後の頁 20-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋眞一	4. 巻 38
2. 論文標題 幕末江戸町方地域の人口動態	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学雑誌	6. 最初と最後の頁 43-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小池司朗	4. 巻 38
2. 論文標題 空間的観点からみた人口転換の地域パターン : 一九五〇年の出生力・死亡 力の市区町村別分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学雑誌	6. 最初と最後の頁 62-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山洋平	4. 巻 38
2. 論文標題 市区町村別親子同居率の地域的差異 : 国勢調査オーダーメイド集計結果を用いて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学雑誌	6. 最初と最後の頁 83-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 平井晶子
2. 発表標題 ジェンダー構造のねじれをほどく アジアの中で日本家族の近代化を考える
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平井晶子
2. 発表標題 近代化は日本女性に何をもたらしたのかー18-20世紀の歴史人口学的考察
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会第6回大会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平井晶子
2. 発表標題 徳川東北農村における女性の年齢別死亡率と其の変化 「妊産婦」死亡率改善の可能性を考える（シンポジウム：お産と妊産婦死亡と胎児観）
3. 学会等名 日本人口学会関西地域部会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣嶋清志
2. 発表標題 江戸後期農村人口における波動と飢饉 石見国今浦に見る
3. 学会等名 日本人口学会第74回大会
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 小池司朗
2. 発表標題 戦後における出生力・死亡率の市区町村間較差の長期的変化
3. 学会等名 日本人口学会第74回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shiro KOIKE, Keita SUGA and Kenji KAMATA
2. 発表標題 Long-Term Changes of Subnational Population in Japan and Their Factors
3. 学会等名 11th International Conference on Population Geographies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小池司朗
2. 発表標題 「平成の大合併」前後における旧市町村別の人口動態
3. 学会等名 日本地理学会2022年秋季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山智・高橋眞一・丹羽孝仁・西本太
2. 発表標題 ラオス北部遠隔農村における人口動態と水田所有
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丸山洋平
2. 発表標題 マクロ統計データの組み合わせによる新たな地域人口分析指標
3. 学会等名 日本人口学会第74回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平井晶子
2. 発表標題 (企画セッション)人口からみた近代移行期の日本：近代移行期の世帯と家族
3. 学会等名 日本人口学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣嶋清志
2. 発表標題 国勢調査像の形成過程 高橋二郎にみる
3. 学会等名 日本人口学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣嶋清志
2. 発表標題 万国統計公会の人口調査像
3. 学会等名 経済統計学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 平井 晶子、中島 満大、中里 英樹、森本 一彦、落合 恵美子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 330
3. 書名 わたし から始まる社会学	

1. 著者名 Ochiai Emiko and Hirai Shoko	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Japanizing Japanese Families	5. 総ページ数 447
3. 書名 Brill	

1. 著者名 日本人口学会報告書（平井晶子、中島満大、廣嶋清志、高橋眞一ほか）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本人口学会	5. 総ページ数 256
3. 書名 歴史人口学の課題と展望	

1. 著者名 Nakajima, Mitsuhiro	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 447
3. 書名 “Chapter 6 Population, Marriage, and Extramarital Births in a South-Western Maritime Village”, Emiko Ochiai and Shoko Hirai ed. Japanizing Japanese Families Regional Diversity and the Emergence of a National Family Model through the Eyes of Historical Demography,	

1. 著者名 中島満大	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 330
3. 書名 「第6章 子どもはどちらについていくのか」平井晶子ほか編著 『わたし から始まる社会学 -- 家族とジェンダーから歴史，そして世界へ』	

1. 著者名 鈴木 理恵編（分担執筆 平井晶子）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 320
3. 書名 家と子どもの社会史	

1. 著者名 森本 一彦、平井 晶子、落合 恵美子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 456
3. 書名 家族イデオロギー リーディングス アジアの家族と親密圏 第1巻	

1. 著者名 平井 晶子、落合 恵美子、森本 一彦編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 504
3. 書名 結婚とケア リーディングス アジアの家族と親密圏 第2巻	

1. 著者名 落合 恵美子、森本 一彦、平井 晶子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 478
3. 書名 セクシュアリティとジェンダー リーディングス アジアの家族と親密圏 第3巻	

1. 著者名 小林 准士	4. 発行年 2022年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 408
3. 書名 日本近世の宗教秩序	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	廣嶋 清志  (Hirashima Kiyoshi)  (20284010)	島根大学・その他部局等・名誉教授   (15201)	
研究分担者	中島 満大  (Nakajima Mitsuhiro)  (70774438)	明治大学・政治経済学部・専任講師   (32682)	
研究分担者	小林 准士  (Kobayashi Junji)  (80294354)	島根大学・学術研究院人文社会科学系・教授   (15201)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小池 司朗  (Koike Shiro)  (80415827)	国立社会保障・人口問題研究所・人口構造研究部・部長    (82628)	
研究分担者	高橋 眞一  (Takahashi Shin'ichi)  (80030683)	新潟産業大学・経済学部・教授    (33103)	
研究分担者	丸山 洋平  (Maruyama Yohei)  (60758647)	札幌市立大学・デザイン学部・准教授    (20105)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関